



樹妙だより

No.186 2021/1



2年生修学旅行代替行事（12/3～4）



明照学園 理事長
樹徳高等学校長
野口秀樹

新年あけましておめでとうございます。

輝かしい新年をお迎えのこと、お慶び申し上げます。

本年もよろしくお願いいたします。

1893（明治26）年に文部省より発表された日本の唱歌「一月一日」、子どもの頃のお正月にはよく唄いました。この年になっても歌詞は覚えております。歌詞の内容は分かりませんが、お正月のお目出度い歌だと思って唄っていました。

年の始めの 例（ためし）とて
終（おわり）なき世の めでたさを
松竹（まつたけ）たてて 門ごとに
祝（いお）う今日こそ 楽しけれ

歌詞の内容は、一年の初めの恒例行事、終わりになき御代の目出度さを、家々に門松を飾り、みな

で祝う正月は実に楽しい。

新型コロナ禍の中にあっても、喜び満ちてスタートを切りたいものです。

私が節目の時に必ず生徒達に話すのは、私達はパイオニア、開拓者であるということです。

目の前には、まったく足跡のない自分だけの新しい道が用意されています。これはまだ人類が誰も歩いたことのない道なのです、初めての時間なのであります。どのような境遇に置かれようが、どのような人生を生きようが、皆同様に初めての時間を突き進んでいる。目の前に何が起こるかまったく分からない未知の時間なのです。

新しい一日を生きるということは、世界中の誰にとっても「未知への挑戦」ではないでしょうか。このことをよく考えてみると、間違いなく凄いことなのであります。

私などは勇気がなくて臆病者なのですが、振り返ってみると、ズーっと初めての時間に挑戦し続けてきたのです。生き抜いて来たのです。嬉しくなりますし、未来に対して自信も持てます。

「やれる、できる」の思いを強く持ち、思いを込めた第一歩を、覚悟の違う第一歩を踏み出しましょう。



樹徳高等学校 副校長
野村 聡

新年あけましておめでとうございます。よき新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。旧年中はご厚情を賜り、ありがとうございました。

本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年突然発生した新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、東京オリンピックをはじめとして本校の学校行事計画も次々に中止、変更を余儀なくされました。教職員はその対応に追われ、生徒は窮屈な日々を送りました。予想を超える感染の広がりや深刻さに直面して、個人的には「限界状況」という言葉を何度も想起しました。それは、個人の意思や努力では変えることのできない、人間存在にとって巨大な壁となって立ちふさがるような状況を指す実存主義の用語です。

しかし、私たちの人生、生活は、計画どおりに行く方が稀といえるかもしれません。私の六十数年の人生、四十年間の教員生活を振り返ってみても、人生の節目に「図らずも」という展開が数多くあったように思います。私の周りいる人も、自分のキャリアは偶然によるところが大きいと感じているようです。外部環境を自分の思ったとおりにコントロールすることはできませんが、偶然の出来事を積極的に活用することは可能です。それは偶然に身を委ねることではありません。外部環境の多くは、偶然の連続ですが、自分のとる行動や態度は自分の意思や判断で計画的に選択できます。行動次第で、偶然を望ましい結果に換える確率を高めることはできます。何も行動しない限り、何も成し得ない。どこにもたどり着かないことは明白です。行動すること、新しいことにチャレンジすることは、不安や恐れを伴いますが、どんな結果でも何らかの新しい学びを得ることになると思います。

人生何が起こるかかわからないと、今回のパンデミックでつくづく思います。わからないから不安になりますが、わからないから可能性も秘めています。偶然を幸運に昇華するためには、

- (1) 偶然の出来事を積極的に活用できるよう、心を常にオープンにしておく。
- (2) 今、起きている出来事が幸運をもたら

す契機となるか否かを、慎重に見極め、果敢に行動する。

- (3) 選択したことが望ましい結果となるよう工夫し、納得がいくまで継続して取り組む。

以上のことが、大切ではないかと考えます。

ところで、構想4年、準備3年という長期で綿密な計画の下、進められている事業が、当地域にあります。皆さんご存知の、桐生・みどり地区における県立高校再編計画です。本計画の背景には急激な少子化の進行があります。群馬県における中学校卒業生・見込者数は、ピークの平成元年(1989年)には33,859人でしたが、令和3年(2021年)には17,307人とほぼ半減し、桐生・みどり地区の減少率はさらに著しいものがあります。そうした中で、桐生高校と桐生女子高校を統合し、高いレベルの進学を目指す新「桐生高校」と、桐生南高校と西高校を統合し、大学進学を始め多様な進路を実現できる「桐生清桜高校」が、コロナ禍ですが、予定通り本年4月に開校することになります。構想を議論する中では7校のうち1校だけを廃止する案、専門高校を統合する案、統合する普通高校の異なる組み合わせ案等もありました。また、各校の教職員、生徒、保護者、同窓会等の様々な思いが交錯しましたが、「桐生の子どもは桐生で育てよう」を合言葉に小異を捨て大同につくことで、最終的には前述の統合案でまとまりました。その頃、教頭先生と「再編の頃は苦勞したけれど、いい学校になったと、後で言えるようにしよう。」と励ましかけていたことを懐かしく思い出します。目に見えない新型コロナへの恐れから心も萎縮しがちですが、開かれた心で新しい公立高校と向き合い、切磋琢磨して行きたいものです。特に、新「桐生高校」はよき隣人としてお互いに刺激し合い、高め合い、桐生の新しい、魅力ある学園エリアを創造したいものです。

「限界状況」という術語を創始した、20世紀を代表するドイツの哲学者ヤスパーズは、限界状況に直面し、孤独や絶望を経験した人間同士の交流こそが、かけがえのない本来的な自己(実存)を発見することになると言います。コロナと共に、コロナの後に、新しい未来が見通せるよう、柔軟に、ポジティブに、一年を過ごしたいものです。

リスニング上達法

新年を迎え、3年生はいよいよその力を試す時が来ました。1, 2年生は、次年度に向け、これまでの学習内容を確実に定着させ、力を貯える時期です。

英語学習において、「ただ聞き流してもリスニング力は上がらない」という、一体どうすれば…という声を聞きます。今回は、私が実践した勉強法を、お話ししたいと思います。

1. なぜ聴き取れないのか？

リスニングの勉強法を説明する前に、そもそもなぜ英語を聞き取ることが出来ないのか、その原因を簡単に説明します。実はリスニングには越えなくてはならない**2つの壁**が存在しているのです。

まず1つ目。それは**意味の壁**です。リスニングの際、「単語は聴き取れているのに、意味が取れない…」ことはありませんか？

例えば“take off your jacket”という表現。takeとoffは聞き取ることが出来ますよね。しかし“take off”で「脱ぐ」という意味になることを知らなければ、このフレーズを聞きとることは出来ません。単語や熟語の意味をきちんと押さえることで意味の壁を越えましょう。

2つ目の壁は**音の壁**です。すべて知っている単語。ゆっくり読めば意味が取れる。でも音声で流れてくると何を言っているか分からない…つまり**単語、表現の意味は知っているけど、リスニング練習が不足しており、聴き取ることができていない状況**です。

再度“take off your jacket”を例に取りましょう。これは、「ジャケットを脱げ」といった意味ですが、リスニングの際、「テイコーヨァジャケ」と聞こえます。音の壁を超えるには、単語間の音のつながりや強弱を何度も練習しましょう。

2. 練習法

リスニングには意味の壁と音の壁という2つの壁があることが分かりましたね。基本的にはこの**2つの壁を乗り越えていけばリスニング力が高まっていきます**。では、それぞれの壁を乗り越える方法をお伝えします。

①意味の壁にぶつかったとき…

- ・スクリプトを読み、意味がパッと取れない箇所にマーカーを引き、そこにある単語、表現、文法事項を調べる。→ **意味が完全に分かる状態にする**。
- ・意味をイメージしながらスクリプトを繰り返し音読する。読みながら意味が取れる状態になれ

ばリスニングでも意味が理解できるようになります！

②音の壁にぶつかったとき…

読めば意味が分かるのに、リスニングだと意味が分からない…こういった場合は音を正しく認識し、**音声の流れるスピードで理解**することが必要になります。

- ・スクリプトを見ながらリスニングをして、聴き取れないところにマーカーを引く。
- ・音声を聴きながらその箇所をマネする。→カタカナ発音ではだめ。**音源の完コピ**をする勢いで！
- ・**慣れてきたら**音声にかぶせて音読するシャドーイングをする。

以上の練習法をまとめると

①問題を解く

②わからない箇所にマーカーを引き、意味、発音を調べる

③読めば理解ができる状態のものを飽きるまで聞く

④飽きたら次の問題へ進む

以上です。慣れないうちはきついです、すぐに慣れます。頑張ってください！

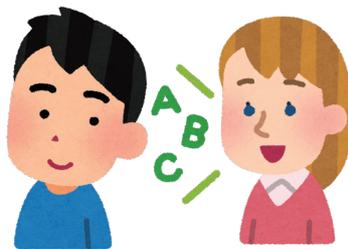
「継続は力なり」ですよ！

3. 終わりに

以上の練習をすればリスニング力は確実に上がります。だまされたと思って試してみてください。必ず力はつきます。

とにかくコツコツと継続すること。これこそが英語力向上の1番の近道です。

英語科 田村京介



一月の法語

生きていることを

大事にしていますか

コロナ禍での新たな試み！ TDLでの修学旅行代替行事が行われる！

これまで本校では伝統的に京都方面への修学旅行が実施されてきましたが、本年度からは平和学習を主眼とした、沖縄方面への修学旅行に改編される予定でした。しかし、コロナ禍で沖縄の医療体制が逼迫したことから、やむなく修学旅行は中止となりました。

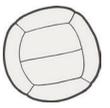
そこで、修学旅行の代替行事が企画されることになりました。行き先は何とTDL！ 出発日が近づくにつれ、現地方面の感染者が増加傾向となり、代替行事の催行も危うくなる中、何度も実施の可否について会議がもたれましたが、本校生がこれまで行ってきた丁寧な感染対策に加え、受け入れ先の現地、また移動のバスにおいても現実的で可能な限りの感染対策を入念に行っていただけに鑑み、コロナ禍での新たな一歩を踏み出すことにいたしました。

「不安だからやめよう」ではなく、「どのような行動にリスクがあり、どう行動すべきか」を科学的な見地からとらえ、第2学年学年団が一丸となって徹底した事前指導を行い、当日も、また事後も感染者を出すことなく、この新たな試みを終えることができました。これは、本人たちの努力に加え、多くの方々に支えられてのことでした。修学旅行代替行事を終え、形は違えども、本校らしさの一つである、「感謝の心」を育む機会の一つになったと思います。





1, 2年生 球技大会特集



コロナ禍で分散実施となった今年度の球技大会ですが、11月に先行実施された3年生に続いて、1, 2年生も12月10日(2年生)・11日(1年生)と、日程を分けて学年別で実施されました。競技種目はバレーボール。試合会場に入れるのは、試合に出る生徒とそのクラスの生徒のみに限り、応援も声援は禁止で拍手のみという、感染対策に配慮した形式で進められました。新型コロナを正しく恐れるということは、出来る事と控えるべきことを考え、行動に移すことです。そんな本校の姿勢が感じられる球技大会となりました。



大会結果

○第2学年 総合 優勝：2 J 4 準優勝：2 J 3 3位：2 J 2
 進学 優勝：2 K 2 準優勝：2 S 1 + 2 S S 3位：2 K 1
 ○第1学年 優勝：1 J 3 準優勝：1 J 1 3位：1 S 4位：1 K 1 + 1 S S

一貫校 中学校 だより

夢は大きく根は深く

新しき年の始めの 初春の 今日降る雪の いや重け吉事

この歌は、奈良時代の歌人大伴家持（おおとものやかもち）によって詠まれた歌です。この歌は、万葉集第20巻4516番目の歌で、万葉集はこの歌で終わっています。大伴家持が最後に詠んだ歌とも言われています。当時は、新年に降る雪は縁起がよいとされていたようで、縁起のよい雪と同じように吉事（「よごと」と読みますが、良いことの意味）もたくさんふりかかってくるようにと願いをかけた歌なのだと思います。

保護者の皆様、新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年もよろしくごお願い申し上げます。冒頭の歌のように、樹徳に学ぶ生徒一人ひとりに、よいことがどんどん重なるよう、微力ながら今年もそのお手伝いをさせていただこうと思っております。

さて、1月7日は「七草」と言い、日本では万葉の昔から、「七草がゆ」を食べる習わしがあります。「七草がゆ」は「邪気をはらい万病を除く効果あり」とも言われています。「せり」「なずな」「ごぎょう」「はこべら」「ほとけのざ」「すずな」「すずしろ」が標準ですが、中には、クリやたらの芽などを入れる地方もあるようです。正月のご馳走で弱った胃腸を回復させるとともに、1月21日から15日間の「大寒」と呼ばれる、一年で一番寒さの厳しい期間に備えて、病気にならないようにという願いをこめて行われてきたものともいわれています。

ところで、一般的な春の七草の中の「すずしろ」というのは、大根の若葉のことですが、あとのものは野原に生えている野草です。寒さの厳しい季節ですが、地べたにはいつくばるようにしてこれらの草は生長しています。昔の人が、七草がゆを食べると病気にならないと考えた理由が、栄養面以外のこんなところからも、なんとなくわかるような気がします。

さて、草花と言え、こんな言葉もあります。

何も咲かない寒い日は 下へ下へと根を伸ばせ やがて大きな花が咲く

この言葉は、樹徳中の校歌の中に歌われている「夢は大きく根は深く」に通じるものがあります。

大伴家持の歌にあるような「吉事」は、ただ、待っているだけでは、なかなかやってこないものです。生徒のみなさんには、貴重な一日一日を、足下を見つめ、下へ下へと根を伸ばしながら、来るべき飛躍の時に大輪の花を咲かせることができるよう、主体的・能動的に、自分を磨いていってほしいと思っています。

樹徳中は、今年度末で開校して20年目を終了します。今後も、樹徳教育の根幹である仏教精神に基づいた情操教育を大切にしながら、「智慧」と「慈悲」の調和のとれた青少年の育成に努めてまいります。そして、生徒、保護者、教職員の笑顔が連鎖する学校であり続けるよう、保護者の皆様との信頼関係、協力体制を大切にしていきたいと思っております。本年も、温かいご支援・ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

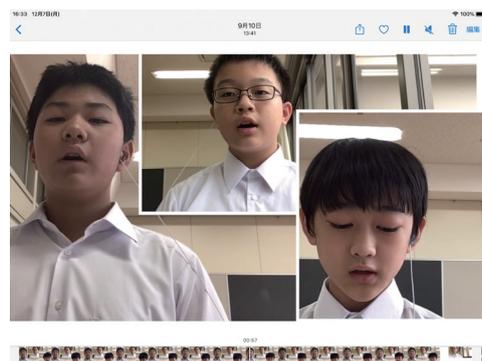
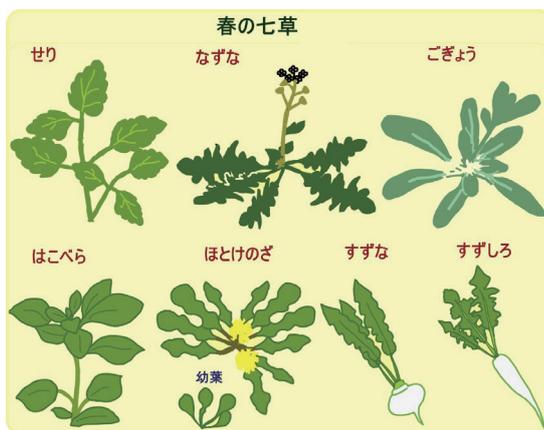
結びに、保護者の皆様にとりまして、健康で幸多き一年となりますことを心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。（校長 澁谷 和郎）

◆生徒自作の

ミュージックビデオを作成！

～主体的音楽の授業～

今年はコロナウイルス感染拡大防止のために合唱コンクールもままなりませんでしたが、音楽の授業では各クラスで生徒自身が作詞、作曲を行い、ダンスの振り付けまで考えてミュージックビデオを作成しました。それぞれの得意分野を生かして生徒たちが知恵を出し合い、協力して一つの作品を作りあげました。この経験を自信に、協力から生まれる様々な可能性を信じてほしいと思います。



幼稚園だより

◆「新年を迎えて」

新年あけましておめでとうございます。
 昨年(12月)は、新型コロナウイルス感染症の全国的な拡大(1都6県で最多を更新)や、群馬県でも連日40人を超える感染者数で、緊張と不安の中で、子どもたちの感染防止対策とともに、大切な経験とのせめぎ合いの中での園生活(教育・保育)となりました。しかし、どんな苦難に見舞われても、子どもたちの元気いっぱい遊び続ける姿は、保育者の不安やストレスを緩和してくれます。子どもの遊びや学び、育ちを保障する場である幼稚園として、保護者の声を聞きながら「子どもにとってどうか」という視点を大切に、行事等を検討、工夫して取り組んできました。そして、感染が拡大する中で迎えた新年ですが、気を緩めることなく、希望を持ってしっかり取り組んでいきたいと思っています。

島根県庁の出した新聞広告、〈早く会いたいけん、今は帰らなくていいけんね〉コロナ禍で里帰りもできないお正月となってしまいました。今年こそは、新型コロナウイルス感染症の収束と、いつもの生活に戻れるよう、園・家庭・地域と連携し、頑張りたいと思っています。さらに、コロナに負けない園生活を継続して、令和2年度まとめの3学期にしたいと思っています。保護者はじめ関係皆様の、ご支援ご協力よろしくお願いたします。

◆「行事で大事にしたい〈目に見える物〉と〈目に見えないもの〉」

12月11日(土)に、樹徳高校「勢至ホール」で予定していた「なかよし発表会」は、コロナ禍での「三密回避」という観点から中止となりましたが、12月7日(月)から1週間、各学年ごとに保育参観での発表会を幼稚園遊戯室で開催しました。練習の成果を広いホールの舞台上で発表

できればよかったです。この情勢下では仕方ありませんでした。実施するにあたっては、「実施してよいものか？」先生方と検討を重ねましたが、子どもの育ちを支える役割を考へて、「子どもの育ちのためにすべきこと」「感染対策のためにすべきこと」の、二つのバランスを取りながら行事等は中止でなく、子どものためにできることを第一に、感染防止策を徹底して実施することに決定しました。子どもの成長を見ることができ、今は実施できたことに感謝の気持ちでいっぱいです。保護者からも「身近で子どもたちの成長の様子を見ることができてよかった・・・」と、感謝のお言葉をいただきました。子どもたちは、歌や劇、合奏(合同含む)等の練習を通して、できる喜び、練習の大切さ、意欲的な取り組みや自信、保護者に見ていただいた喜び等の充実感や達成感を得るとともに、確実に成長することができました。ひよこ(1歳児)組の子どもたちは、劇遊びの発展として給食の時間には「あ！にんじん」「あ！コーン」と、劇に出てきた野菜を発見し喜んで食べていました。このように、発表会に向けて作った物(小道具)で遊ぶなど「目に見える」ことと、発表して認められたことでより自信を持って生活するなど「目に見えない」ことの双方が大事であり、日常生活をより豊かにする役割(ねらい)が果たせた発表会になったかなと思っています。コロナ禍での保育参観を通して、子どもの成長した姿を見ていただきました保護者の皆様、ありがとうございました。練習過程や発表会での成果を、3学期の園生活で一層確実にして、更なる成長に向けて、しっかり指導・支援していきたいと思っています。

園長 瀬谷 茂



令和3年度一入園児募集中ー
 ◎2歳・満3歳・3歳児の入園を3月末日まで受け付けています。
 (随時受付、随時入園可)
 募集人員 ・2歳児10名・満3歳児10名・3歳児10名
 年少・年中・年長の入園・転入はいつでもできます。
 ◎入園については、まず幼稚園まで御連絡ください。
 ◎園見学はいつでもできます。是非遊びにお出かけください。
 園庭は開放していますので、遊具等使って自由に遊んでください。
 ※連絡・問合せ
 住所: 桐生市広沢町三丁目4475番地
 電話: 0277-53-5571
 HP: <http://www.jutoku.ed.jp/>



1月(持戒)の行事予定

日	曜日	高等学校(本校)	一貫校	幼稚園
1	金	元旦 悔過修正会		—元旦—
2	土	年始挨拶訪問		
3	日			
4	月	1/9振替休日		仕事始め 〈安全点検日〉 預かり保育③
5	火	校内安全点検日 授業料納入日	校内安全点検	預かり保育④ 〈小寒〉
6	水	始業式・学年別一斉指導 推薦・学奨入試打合せ会議 (16:10~) 運営委員会⑤	始業式 大掃除	預かり保育⑤
7	木			預かり保育⑥ 3学期準備
8	金	大掃除 入試会場作成	推薦・学奨入試会場作成 頭髪服装指導	第3学期始業式 〈保育料納入日〉
9	土	推薦・学奨入学試験 職員出勤日	高校推薦・学奨入試	開園
10	日			
11	月	成人の日		—成人の日—
12	火	学奨入学試験審査会 マイトリー基金抛金日 大学入学共通テスト直前演習~13日 一般ステップアップ入学試験ネット出願(受験生)~20日	マイトリー基金抛金日	読み聞かせ(西山先生)
13	水	推薦入学試験審査会 校内書き初め大会 県校長会 日私中高連常任理事会/協会長・事務局長会議 一般入学試験出願書類提出期間~20日		英語(全)文字と数(年長)
14	木	大学入学共通テスト出陣式		体育(全)文字と数(年中)
15	金	中高協会定例会(農二)	ミニマナーアップ運動	「お誕生会」(12・1月生まれ)
16	土	大学入学共通テスト1日目 1・2年生ベネッセ総合学力テスト	市冬季大会(~2/13)	開園
17	日	大学入学共通テスト2日目		
18	月	LHR 学年主任会⑨ 推薦・学奨入学試験合格発表日 大学入学共通テスト自己採点		リズム(全)線(年少)
19	火	鏡開き		母の会「教養講座」(樹徳高吹奏楽部)
20	水			お茶のお稽古 英語(全)文字と数(年長) 〈大寒〉
21	木	県高P連次年度役員候補者推薦委員会		体育(全)文字と数(年中)
22	金	制服アフターサービス	三越AS 英検4、5級③	
23	土	職員出勤日 第1回入学手続き(9:00~) 英語検定③~④	英検2、3級③(午前) 第1回入学説明会(13:00~)	開園
24	日			
25	月	朝礼 法然上人忌 国公立大出願検討会 教科主任会⑧		リズム(全)線(年少)
26	火	卒業試験/1・2年中間試験~28		ホール授け教室(年長) 読み聞かせ(西山先生)
27	水		中間テスト(~28日)	英語(全)文字と数(年長)
28	木	一般・ステップアップ入試打合せ会議		体育(全)文字と数(年中)
29	金	一般・ステップアップ入試会場作成 大掃除 出欠統計提出 (ペン字検定③)		
30	土	一般・ステップアップ入学試験 職員出勤日	中学進研学力推移調査③	開園
31	日	一般・ステップアップ入学試験採点 職員出勤日		



樹徳高等学校
樹徳中学校
樹徳幼稚園

〒376-0023 群馬県桐生市錦町一丁目1番20号
TEL 0277-45-2258 FAX 0277-47-1671

〒376-0022 群馬県桐生市稲荷町4-12
TEL 0277-45-2257 FAX 0277-45-2262

〒376-0013 群馬県桐生市広沢町三丁目4475
TEL 0277-53-5571 FAX 0277-53-5572

[Web] www.jutoku.ed.jp [Mail] office@po.jutoku.ed.jp

発行責任者 野口秀樹
印刷所 太陽印刷工業(株)

夢は大きく 根はふかく